

元魔法少女を指名できる風俗店「ダブルヒロイン孕ませ隷嬢コース」

### シーン3

マリー「に、似合ってるゾとかっ……こんな格好させて悦に浸るなんて、つく、この前は、あ、あれくらいであたしの心を折るなんて……で、できないんだから！」

キョウカ「うう、ホントすみません。ウチが操られてあんなことを……しかも、こんな紐にちょうどだけふさふさをつけたような破廉恥な衣装……」

マリー「ぎゃ、逆バニーって頭おかしいんじゃないのー？ 手と足だけ覆って、あ、あそこと乳首にシール張ってるだけなんて……」

マリー「んくうっ♡ リード握って、なんてこと命令、んあっ♡ また、逆らえないっ……こんな、ペツトみたいに膝まつかせて……」

キョウカ「はうっっ♡ 恥ずかすぎて顔から火が出てしまいそうや」

マリー「ペットの餌箱……つく、犬みたいにこれで食べるところを見て喜ぶなんて、ホント下衆……それでミルクでもご馳走してくれるってわけ？」

マリー「ペットボトル、ほんとにミルクでも？ うっ……この匂いー？ せ、精液じゃないー……」

キョウカ「え、マリーはん……それは、本当なん？」

マリー「ええー？ また催眠洗脳で変えられてるのっ……だいぶ透明になってるけどこの匂いどう考えても精液でしょう……」

キョウカ「そんな……ウチには濃厚なミルクのようなお神酒ともちがうかぐわしい……確かにとても人が口にするような見た目ではなんやけど、こんなに臭いのウチなんでもっと嗅ぎたいなんてはしたないこと……あれ、マリーはなんなんでそんなによだれを」

マリー「え、えー？ 嘘っ……気づかないうちに床に垂れるぐらいー？ まさか、餌箱のせ、精液を見てー？ あんな臭いものっ……あいつの汚いところから……ダメっ、精液のこと考えるだけでよだれどんどん出てきてー？」

マリー「ふー♡ ふー♡ 『待て』だなんて言われなくてもこんな、の……」

キョウカ「はふう♡ ところで♡ 湯気が立ってますのに♡ こんなに臭くて♡ 殿方の濃い匂い♡ 待つてるだけやのにウチ、ウチ♡」

マリー「京香、催眠洗脳に流されちゃ……正気を、保って……んあ♡」

キョウカ「ああ、ああ♡ 『よし』やなんて言われましたら♡ あ、あ♡ 体が、顔近づけると匂いが♡」

マリー「くうっ♡ くっさい♡ くっさい♡ なんでもだれ止まらないのー？ はあ、はあ♡ もう唇が♡ んちゅ♡」

キョウカ「ああ、犬みたいに顔突っ込んでマリーはんも横にいるのに♡ すんすん♡ お鼻で匂い嗅ぐのやめられない♡ ちゅるっ♡」

マリー「んうっ♡♡♡♡ーっ♡」

キョウカ「ふぐん♡♡♡♡ーっ♡」

マリー「ちゅば♡ んぶううっ♡ ♪ロロロ♡ ずちゅるっ♡」

キョウカ「ちゅ、ちゅっ♡ ちゅるるるっ♡ じゅるるるっ♡」

マリー「ぶはっ♡ なにこれえ♡ せーしなのに♡ こんなにくっさいのに♡ 今まで食べたどんなお菓子よりも美味しい♡ くっさいのにもっともっと欲しくなっちゃって♡ ダメえー？ んちゅ♡ ずりゅっ♡ ♪ロロロちゅるん♡♡♡♡ーっ♡」

キョウカ「はあ♡ はあ♡ ウチも♡ 餌箱にはしたなく顔突っ込んでるの気にならないぐらい素敵な匂いや♡ おなかの中から鼻の奥まで全部せーしの匂いしかなくなってるのに、た、堪えないと……うう」

マリー「ちゅっばっ♡ ……あ、あ、もうなくなっちゃった……」

キョウカ「んぶうっ♡ お口の中、せーしの匂いこもって♡ 堪えないといけないのに……」

マリー「あ、京香のほほにせーしについて♡ ちゅ♡ ちゅばっ♡」

キョウカ「ひゃあっ♡ マリーはん♡ ダメですー？ んあっ……マリーはんのお口もせーしの匂いいっぱい♡ ちゅ、ちゅ♡」

マリー「せーし味の京香の舌♡ おいしい♡ もつとっ♡」

キョウカ「ぴゃあっ♡ んちゅっ♡ せーしの匂い♡ ダメですのに♡ れろおっ♡」

マリー「んちゅ♡ ちゅばっ♡ ……ずちゅっ♡ ……おいしい♡ ちゅっ♡ んっ♡ ……もつと♡ ……ちゅるっ♡ ちゅ♡」

キョウカ「んー♡？ んんっ？ ……ちゅばっ♡ ……マリーはん♡ ……んあっ♡ ……はあ♡ はあ♡ ……れろ、ちゅばっ♡」

マリー「はあ♡ はあ♡ ……はあっ♡」

キョウカ「ふー♡ ふー♡ ……んあっ♡」

マリー「堪能……だなんて、つく……全部、催眠洗脳のせいなんだからっ♡ ……♡」

キョウカ「お、お代わりです？ ああ、やっと少し酔いが抜けたのに……ひっ♡ そんなもの突きださないで下さいーっ♡」

マリー「うっ……まさか……うう、たしかにそれから出すやつだけどお……♡」

キョウカ「お、おむねで挟むんです？ ふうー♡ ふー♡ こんな近くで♡ 催眠洗脳のせいで牛鬼さんの体の匂い全部好きに感じるなんて♡ こんなひどいものの匂い♡ ああ、ああ♡ とつても濃い♡」

マリー「じゅるっ♡ 牛鬼のあれなのに♡ んあっ♡ おっぱいにふれただけでびりびりして♡ また睡がとまらない♡ ペットボトルに溜めたせーしだけであんなにおいしかったのに♡ 目の前で、しや、射精されちゃったらあ♡」

マリー「はあ♡ はあ♡……はあ♡……おっぱいをぎゅつと押し付けて♡ 上下にすりすり♡」  
キョウカ「こ、こうです？ マリーはんに合わせて♡ つ、唾も♡ れろつて♡ ぬるぬるです♡いい匂  
いやのに♡ な、なめるなんて♡」

マリー「だ、ダメー？ あれに口をつけるなんて……戻れなくなっちゃうから♡ ふー♡ ふー♡  
こんなにおいしそうなのに♡ うう♡ 堪えないと堪えない♡」

キョウカ「ああ、マリーはんのおっぱいからドキドキが響いて♡ ウチもおなじぐらい♡ こは耐  
えて、反撃のチャンス♡ んあ♡」

マリー「お、おしりもんじやイヤー？ つく、濡れてるわよ……んあ♡ 指で♡ 触られてるのに  
♡ 体喜んでるうー？」

キョウカ「ひゃあ♡ お豆つまんだらあかんやでー？ 腰浮いちゃつて♡ お、オナニー……自慰の  
こと？ うう、週に一回ぐらい……んあ♡ こんな激しくなんて♡ やったこと♡ ひうう♡」

マリー「は♡ は♡ 先端、き、鬼頭で言わなきゃダメなの……鬼頭からお汁が♡ しゃ、しゃぶ  
りつかないわよー？ うう、早く終わらせないと、ダメ、ダメなの……♡」

キョウカ「また、せーしの匂いが強くなって♡ ウチ、ウチ、汗の匂いもお、おちんぼの匂いもお♡  
マリーはんも堪えてるんやから！ ウチも……んふう♡」

マリー「すりすり♡ むにゅ、むにゅ♡」

キョウカ「すりすり♡ むぎゅつて♡ 押し付けて♡」

マリー「はあ、はあ♡ おっぱいのお肉の感触が口の中にいれてるみたいに♡ よだれとまらない♡  
なんでこんな美味しそうに見えるのお♡♡♡」

キョウカ「ふー、ふー♡ 鼻先に当たりそうに♡ こんなの褒められても……♡」

マリー「あ、あ♡ 鬼頭がぷっくり膨れて♡」

キョウカ「竿もびくびくつて♡ まさか、ああ、あああ♡」

マリー「んひ♡ 出てる♡ せーしっぱい♡ ぶろぶろのせーし♡」

キョウカ「ふあ♡♡♡……こんなに濃い匂いやなんてー？ さっきのと全然違って♡ お鼻か  
ら頭の中まで犯されてるみたい♡♡♡……」

マリー「ちゅる♡♡ もう我慢できない♡ ずちゅる♡♡ こんな、こんなくっさいのに♡ これ♡  
好き♡ あたし射精チンポにキスしてせーしすっちゃってる♡ 美味しい♡ 美味しい♡ 止まら  
ないのお♡♡♡……」

キョウカ「そんな、マリーはん……んあ♡ おっぱい吸っちゃだめです♡ ちゅば♡ ああ、お口も  
♡ 匂いがかき混ぜられて♡ あ、あ、あああ♡」

キョウカ「はあ♡ はあ♡ つく、ま、マリーはんは催眠洗脳であやつられてるだけで  
足なんて、え、ええー？ そ、それを近づけんといってくださいー？ やあ、せーし残ってないのにオ  
スの匂いぶんぶんさせて、んあ♡ 硬い♡ うう、ウチなんで匂いを嗅いじゃうの……んふ♡ 押  
し付けて♡ まさか、まさか♡……んふう♡♡♡……」

マリー「ふぁ♡ 京香のあそこ噴水見たに♡ いいなあ♡ 金玉の裏の一番濃い匂いのところ♡ はあ♡ はあ♡ わかんない♡ でも、おいしいの♡ もつと、もつとちようだい♡」

キョウカ「んぐ♡♡♡ ん♡ ん♡ ・・・ふはあ♡♡♡ んー♡♡♡!?♡ ん♡♡ んうう♡♡♡♡♡?」

マリー「体びくびくはねちゃって♡ あ、あ♡ おいしそうな耳♡ いいの♡ いいの♡」

キョウカ「んぶ♡♡♡ ・・・くっさい♡♡♡ ・・・ん、ん♡♡♡ ・・・くんかくんか♡ したらあかんの♡♡ ・・・ウチの鼻こわれちゃう♡♡♡ ・・・んぶぶ♡♡♡♡♡」

マリー「れろ♡♡ じゅる♡♡ ・・・ん♡♡ ずぞぞぞ♡♡♡ ・・・ふは♡♡ とまらない♡♡ こんな変態なこと♡♡ あ♡ れろ、れろれろ♡♡ おいしい♡♡」

キョウカ「はひ♡♡ しゅご♡♡ ウチ、ウチ♡」

マリー「はあ♡ はあ♡ もうなにもわかんない♡ 気持ちいいのだけいっぱい♡♡」

キョウカ「ふー♡♡ ふー♡♡ ・・・♡♡」

マリー「あ、あ♡ おチンポ♡♡ いま、ダメ♡♡ ところどころだけお♡ 絶対美味しいからあ♡ ダメ♡♡ ダメにな・・・んお♡♡♡♡♡?」

キョウカ「ああ、マリーはん♡♡ マリーはん♡♡」

マリー「しゅご♡♡ おまんこ♡♡ あたしのおまんこ♡♡ とける♡♡ ぐちゅぐちゅにおちんぽでかき回されてるのに♡♡ わかる♡♡ 美味しい♡♡ おまんこよろこんでる♡♡ んちゅ♡♡ こんな牛鬼の♡♡ でかチンポ♡♡ おくま♡♡ ・・・♡♡♡♡♡!」

キョウカ「はあ♡ はあ♡ はあ♡ マリーはんの声♡♡ けだものみたいに♡♡ 聞いたことないくらい下品なのに♡♡ あ、あ♡♡ ・・・ふあ♡♡」

マリー「んあ♡♡ 抜いちゃイヤ♡♡」

キョウカ「んぎ♡♡♡ 今度はウチー?♡♡ んひ♡♡ ウチも声♡♡ 止まらない♡♡ んちゅ♡♡ はふ♡♡ はふ♡♡ 男の人の汗の匂い嗅ぎながら♡♡ おまんこずぼずぼされるなんて♡♡ ンお♡♡ マリーはんと同じに♡♡ 頭真っ白になっちゃう♡♡♡♡♡!」

マリー「ふー♡♡ ふー♡♡ あたしもあたしも♡♡ 今度は反対側を♡♡ ずりゅ♡♡ れろれろ♡♡ お耳美味しい♡♡ わかんない♡♡ こんなにおいしいのに♡♡ ちゅず♡♡ ちゅちゅ♡♡ ずっとなめていられる♡♡」

キョウカ「んん♡♡♡ はあ♡♡ はあ♡♡ わきの匂いなんて♡♡ 嗅いで♡♡ 鼻うずめて♡♡ スンスンなんて、はしたない♡♡ はしたないのにとまらないです♡♡ すーうはあ、すーはあ♡♡」

マリー「んあ♡♡♡ また、入って♡♡ 京香のお汁のこってるちんぽ♡♡ 美味しい♡♡ わたしも下のお口のよだれとまんない♡♡ もつと、もつと♡♡♡」

キョウカ「ああ、マリーはん♡♡ なんてうらやましい♡♡ はあ♡♡ はあ♡♡ 牛鬼さんのお口とつてもいい匂い♡♡ ああ、あああ♡♡ 酔ったようににもわからなくなっちゃう♡♡」

マリー「なめなめしながらズンズン突かれるの凄いや♡♡ イく♡♡♡♡♡ イくううううー♡♡♡♡♡!」

キョウカ「うちも♡ いろんな匂いで♡ 鼻の奥まで犯されて♡ イっちゃいますぅぅぅー」  
♡♡♡ーっ?」

マリ「はぁ♡ ……はぁ♡ ……はぁ♡♡ おなかいっぱい♡」

キョウカ「ふー♡ ふー♡ ……いっっっ臭い匂い♡」